

総合特別区域の進捗に係る評価
[ライフ・イノベーション分野]

令和元年度

岡山型持続可能な社会経済モデル構築総合特区
(AAAシティおかやま)

[指定：平成25年2月、認定：平成25年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 (3.3+3)/2=3.2

3.2

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	介護保険給付費の抑制	72%	3
2	最先端介護機器等の活用による産業振興	136%	5
3	在宅高齢者の増加とQOLの向上	245%	4
4	生涯現役社会づくりの推進	0%	1

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 1 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 1) / 4 = 3.3$

3.3

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 評価指標3は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 (3.6+3+3.6)/3=3.4

3.4

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.6

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.6

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.8

- ・体力や認知能力が低下しても生涯、役割をもって社会の一員として暮らしていける社会の実現を目標に設定したことは高く評価できる。
- ・就労者の動機付けやビジネスモデルなど付随する課題も多いと思われるが、長寿先進国日本から世界に発信できるモデルの構築を期待したい。先進的な好事例については、全国的な横展開に向けた情報発信にも期待したい。
- ・要介護高齢者の増加という課題に対して地域の視点、工夫から細やかな取組みがなされている。既存の規制にとらわれず、介護を受ける者の身になって、求められる人が動くというシステムが良いシステムであるとの信念が感じられる。
- ・一部大きく目標を達成していない項目もあるが、他の特区には見られないアウトカムの評価を積極的に行い、改善を見ていることは高く評価できる。
- ・研究視点を加味しながら、プロジェクトが推進されている点、さらに新しい段階での事業が採用され、成果もみられる点が評価できる。
- ・介護保険における保険者として、総合特区の制度を活用した介護事業における活性化を視野に入れた取組も評価できる。
- ・介護ロボット導入による介護従事者の負担軽減、従事者の定着なども期待したい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.8

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(3.2+3.4+3.8 \times 2) \div 4 = 3.6$

3.6

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。